

# Richart ~ピチヤリ~

七飯町歴史館だより

第167号

## ななえ古写真物語 VOL.167

### 昭和の国道5号

見かけなくなった木製電柱

昭和40年代か

本町地区か？

かつて、「広報ななえ」に使用するために撮影され、誌面に掲載されたもの、未掲載のものもあわせ、当館には、昭和40年前後に撮影された写真がたくさん保管されている。

その中に、国道5号線沿いの街灯を直している様子の写真があった。七飯町内なのはわかっているのだが、詳しい場所については不明で、拡大してみるとトラックの影に鳥居のようなものが見られること、左側に軒を連ねる建物が商店を思わせる構えとなっていることから、本町地区なのではないかと考えている。しかし、国道に面した神社は、三嶋神社や峠下神社などいくつか候補があるのだが、三嶋神社ならば、七重小学校前に残る石垣がもっと明瞭に写っていてもいいのに判然とせず、峠下神社ならば鳥居の位置が現在と違うなど判然としない。

年代に関してもそうだ。七飯町史には、国道が舗装化になったのは昭和36年と明記されているが、トラックやバイクのスタイルが、新しい印象を受けるので、昭和40年代という漠然とした表現にとどまった。いずれにせよ、何ら根拠もなく推測の域を脱しない。

場所も年代も不確かな写真だが、手前に写る木馬に乗った子どもや、今では見るのがなくなった、コータールが塗られ、黒い縞模様に見える木製の電柱、車道との境界があいまいな歩道など、昭和という時代をうまく切り取った写真だと思う。街灯を直している男性が登っている脚立も木製で、転倒防止のフックすら見当たらないし、何よりヘルメットも装着しないで、家の電球を交換するかのよう、無造作に作業をしているのが、安全を優先する現代との時代の違いを端的にあらわしている。



街灯の形や大きさも今とは異なっている。近年、急速にLED化した七飯町の街灯はよりコンパクトに、かつ電力の消費量の削減に貢献しているが、どこか寒々しい印象を受ける。便利になったのだろうが、一方で、風情をどこかに忘れてきたような感じさえする。

話は変わるが、ニュースで昭和時代の街並みや、暮しぶりを再現したテーマパークが賑わっていることを知った。訪れるお客さんも、当時のファッションに身を包み、写真映えする画像を発信し、レトロな雰囲気を楽しんでいるようだ。自分が幼少の頃に、見慣れた街並みが、若い人には新鮮に映っているという報道に、不思議な心持ちになった。時代の変化を身に染みて感じると同時に、人はどう変わったのだろうか、という思いが頭を駆け巡った。

12月の予定

23日 川から学ぶ時間

辺りの木々の彩りが増す曇り空の下、ジュニア探検クラブを行いました。プログラムは「石の名前は？」と題し、町内の河川で、石を拾ったり、鳥や植物を観察しながら、河川が合流する箇所まで転々と移動し、環境の変化を体感するというものでした。



まずは、横津岳の麓を流れる大川の上流で石を拾ったり、野鳥の声に耳を傾けたり、同じ川が畑地、住宅街にかけて流れていく様子を見学。次に歴史館の近くを流れる鳴川を巡りました。こちらは護岸され、住宅街を流れる箇所ではガラスの破片やら、ゴミが目立つ場所もありましたが、長くつそのまま河川の中を歩き回ったりし、最後に両河川が合流する久根別川で、サケマス類が遡上しているのを観察しました。



歴史館に戻ってから、拾った石の名前を調べたのですが、子どもたちにとって、これが一番の難関だったようです。



暖をとるもの (湯たんぽ)

北国の冬は長く、寒い。現代は、気密性の高い住宅に住んでいると、湯たんぽの必要性を感じない人もいるでしょう。しかし古くは、足元の暖をとるために熱伝導が良く、保温性に優れ、直接ストーブなどに乗せられるため、大変重宝されました。『北海道の民具』(北海道開拓記念館監修 北海道新聞社)によると、湯たんぽの代わりに比較的丸く、平らな石や瓦を熱したり、徳利にお湯を入れて昆布で栓をして使用することもあったとか。右の写真は収蔵資料の湯たんぽ。銅や、ブリキ、真鍮、ジュラルミンなど材質も様々です。フタには「永久に錆びません」と書いてあり、ある意味ものづくりのこだわりを感じさせます。



|    |             |
|----|-------------|
| 1  | 水           |
| 2  | 木           |
| 3  | 金           |
| 4  | 土           |
| 5  | 日           |
| 6  | 月           |
| 7  | 火           |
| 8  | 水 夜の博物館     |
| 9  | 木           |
| 10 | 金           |
| 11 | 土           |
| 12 | 日           |
| 13 | 月           |
| 14 | 火           |
| 15 | 水           |
| 16 | 木           |
| 17 | 金           |
| 18 | 土           |
| 19 | 日           |
| 20 | 月 ピチャリ発行予定  |
| 21 | 火           |
| 22 | 水           |
| 23 | 木           |
| 24 | 金           |
| 25 | 土 ジュニア探検クラブ |
| 26 | 日           |
| 27 | 月           |
| 28 | 火           |
| 29 | 水           |
| 30 | 火           |
| 31 | 水 年末年始休館日   |

年末年始は休館日となります

ピチャリのバックナンバー

既刊のピチャリは、室に置かず、閲覧するにしてください。



編集後記 ~tawagoto~

8月に当館で開催した展示「縄文のカタチ」の一部が、巡回展「縄文のカケラ」として、現在、八雲町郷土資料館で見ることが出来ます。その準備のため、八雲町を訪れたのですが、他施設で行う展示作業がとて新鮮でした。限られた広さ、異なる展示ケース、使う道具の違いなどに頭を悩ませ、ほかの町の人と展示をつくりあげるの、とても勉強になり、どんな施設でも、工夫を凝らして展示に臨んでいることを、改めて感じる時間となりました。

Pichari ~ピチャリ~ 第167号

令和3年11月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp